

ネットコンファレンスの日時、説明者他：

日時	2023年5月12日 16:00~17:00
説明者	代表取締役専務執行役員 CFO 中島 一
説明資料	2022年度決算の概要 及び 2023年度業績予想の概要

## Q&A

### ■ ライフ&ヘルスケア・ソリューションセグメント

#### Q1. ライフ&ヘルスケア・ソリューションの23年度のコア営業利益の計画につき説明して欲しい。

A1. 100億円増益の数量の半分程度は農薬事業での拡販を見込んでおります。また、新設プラントが下期から稼働予定のビジョンケアでの拡販、オーラルケアでの着実な拡販、不織布での事業統合効果を見込んでおります。一方、新設プラントの稼働や農薬を中心とした試験研究費等の増加により、固定費等のコストが増加しております。

### ■ モビリティソリューションセグメント

#### Q2. モビリティソリューションにおける23年度における需要の回復はどの様に考えているのか説明して欲しい。

A2. 自動車生産台数は、22年度も回復基調ではございましたが、半導体不足による影響はまだ残っており23年度も引き続き影響は残るため、地域差が出ると考えておりますが、一般的には回復を想定しています。中国では、ゼロコロナ政策解除の効果およびEV車等の優遇税制にも期待しており、2Q以降の回復を想定しております。

### ■ ICTソリューションセグメント

#### Q3. ICTソリューションの22年3Q（10-12月）から22年4Q（1-3月）にかけて減益となる背景について説明して欲しい。

A3. イクロスを中心とした半導体関連の需要減少による販売数量の減少、円高に推移すること等による交易条件の悪化及び、IFRSの会計基準により租税公課の計上時期は4Q一括となっているので費用が増加しています。

#### Q4. ICTソリューションの23年度のコア営業利益の計画につき説明して欲しい。

A4. 半導体市場につきましては23年度下期からの回復を想定しております。EUVペリクルにつきましては22年度も拡販できており、23年度も更なる拡販を計画しています。イクロスについては、下期の回復に向け需要動向を見極めて参ります。アペルにつきましては、スマホ関連の回復は遅れていますが、XR向けにスマホ関連以外の用途も積極的に展開しており、今後期待しております。交易条件の改善につきましては、主に包装材分野での22年度及び23年度の値上げ効果による改善を見込んでおります。

#### Q5. EUVペリクルの動向について説明して欲しい。

A5. 22年度はしっかりと販売を拡大することができました。23年度も透過率の改善等も進み更なる拡大を見込んでおります。

### ■ ベーシック&グリーン・マテリアルズセグメント

#### Q6. ベーシック&グリーン・マテリアルズの22年4Q（1-3月）の赤字の背景について説明して欲しい。

A6. 在庫の評価及び販売価格フォーミュラの期ずれを合わせた影響による損失、需要鈍化によるポリオレフィンやフェノール類での販売数量の減少及びクラッカー稼働率低下、フェノール類の市況の悪化、IFRSの会計基準により租税公課の計上時期は4Q一括となっているので費用が増加し赤字となりました。

#### Q7. ベーシック&グリーン・マテリアルズの23年度のコア営業利益の計画につき、需要回復の背景や在庫評価の影響、また事業構造改善効果による増益の背景について説明して欲しい。

A7. 在庫の影響につきましては、22年度は在庫の評価及び販売価格フォーミュラの期ずれを合わせた影響は55億円程度の在庫評価益がございましたが、23年にかけてはナフサ価格の上昇はございますが、10億円程度の益に縮小する見

込みである為、22 年対比では 45 億円の減益を見込んでおります。一方、事業構造改善につきましてはシンガポールのフェノール事業株式譲渡による増益の影響を 30 億～40 億円程度見込んでおります。需要の動向につきましては、中国でのロックダウンを始めとした需要の停滞等の影響を受け、アジア市場でのポリオレフィン関係の需要が鈍化しています。22 年度 4Q は大変厳しい状況にございましたが、足元は回復基調が見えだしてきていると感じております。中国での市場の回復等により 23 年度 2Q 以降の回復を期待しております。

**Q8. 22 年度 4Q 及び 23 年度のエチレンクラッカーの稼働状況について説明して欲しい。**

**A8.** 22 年度 4Q は 8 割弱の低稼働です。23 年度につきましては、1Q での低稼働の影響もあり年間では 8 割強の稼働を見込んでおります。本格的な回復は下期以降を見込んでおります。

**Q9. 国内エチレンクラッカーの稼働率が低い状況が続いているが、クラッカー再編に対する考え方について説明して欲しい。**

**A9.** 当社はエチレンクラッカーを東西に 2 基保有していますが、千葉地区は 3 社連携の取り組みもスタートしております。カーボンニュートラルも含めた様々な策を検討しております。また、西日本につきましても社内で検討を進めております。クラッカーの再編については、カーボンニュートラルを含め競争力のあるクラッカーを目指しており、協業にあたりましては将来の姿を共有できる方と組んでいきたいと考えています。

**■ 全社**

**Q10. 成長 3 領域における 22 年度計画から減益の背景について説明して欲しい。**

**A10.** ライフ & ヘルスケア・ソリューションにつきましては農薬での研究費等のコストが増加しました。モビリティソリューションにつきましては、自動生産台数の下振れや、エラストマーで生産調整を行った影響により減益となりました。ICT ソリューションにつきましては、イクロスやアベルによる需要鈍化の影響を受け販売が減少しました。

**Q11. 23 年度上期の予想を開示しなかった理由について説明して欲しい。**

**A11.** 一般的に需要の回復を見極めるのが現時点では困難なため年間での開示としました。

**Q12. 23 年度の持分法投資損益の見込について説明して欲しい。**

**A12.** 中国 JV での市況の下落等を見込んでおり、22 年度からは減益の 150 億円程度を見込んでおります。

以上